

自著と  
その周辺

## 郡山物語

福村出版

編者 菊池信太郎, 柳田邦男, 渡辺久子, 鴫田夏子

定価 1,500円

**略歴**；この本の中心著者菊池信太郎先生は、44歳の現役小児科医師です。出身医局は、慶應義塾大学小児科です。そして、東日本大震災の約1年前に、約50年以上にわたって御両親が運営されている福島県郡山市菊池医院（ご両親ともに小児科医師！）の長男として同院を3人で運営されてきました。

ちなみに、この本の執筆は、約30人のおとな達（主に郡山市の幼稚園先生や、小児科医師など）です。僕横澤保は現在静岡市に在住している甲状腺の専門医ですが、ひょんなことから頼まれて菊池先生と甲状腺疾患の“タッグ”を組んで、郡山市の小児甲状腺診療をほぼ3年間行っています。僕自身は4頁（p311～314）コラムを書かせていただきました。

**この本の内容**；この本の主人公は、東日本大震災の起った福島県郡山市の小児です。郡山市では、原発直後から、原発事故での放射線の影響を心配して、子供たちの野外活動の制限が1年以上続きました。具体的には、保育園・幼稚園児は屋外活動30分以内、小学生は体育の時間を含めても3時間以内などです。あそび場を失った子供たちへの影響は大きいものでした。

① 幼稚園児の体重増加が、直後1年にわたって以前の1/4しかみられない！

② 小児病院に、肩こり・便秘・頭痛とまるで大人並みの不定愁訴患者さんが目立って増える！

そんな子供たちの姿が、地元の人たちの心を動かしました。大人たちは、一致団結してものすごい早さで、巨大な室内あそび場「PIP Kids Koriyama（ピップキッズこおりやま）」を作ったのです（完成+オープン2011年12月!!）。このあそび場は、広さ約1,900平方メートルの空き倉庫に、①ランニングコース、②大型砂場、③ボールプールなどの多くの遊具を備えた、楽しみながら体を動かせる本格施設です。対象は12歳以下ですが、利用は無料。僕も実際に見学しましたが、こどもたちと母親達がいっしょになって、巨大な砂場や、25メートルの直線ランニングコースで、生き生きと歓声をあげている姿が実に印象的でした。この姿は、2012年初旬に全国のマスコミに一斉に取り上げられました。僕自身も、NHK 全国版で、菊池医師が5分以上インタビューに応じる姿を見て、感動しました。全国から講演依頼が殺到して、100件以上の講演をこなされたようです。

この本は、それらの講演の総括とも言えるものです。特に、ノンフィクション作家の柳田邦男氏の、序章「大震災・子供の心とこの国の未来」は、読み応え十分です。さすがプロフェッショナル！ちなみに、柳田邦男氏は、ほとんど同時期に文春文庫から、「想定外の罨：700円」を出版されています。読み比べると面白かったです。

**最後に**；このあそび場は、3年たった今もたくさんの親子が利用しています。そして、郡山市だけでなく、全国の、“塾以外の健全なあそび場”として、その場その場で全国に普及しつつあります。子供たちには、思い切り遊べる環境が必要です。大人たちには、それを少しでも多く支援するぎむがあるとおもいます。ぜひ、一読を！

(独立行政法人地域医療機能推進機構桜ヶ丘病院副院長 横澤 保)

